

## 神の傑作としての一人の新しい人の創造主

聖書：創 1:26．エペソ 2:14-16． 4:22-24

- I. 神が人を創造した意図は、団体の人を持って、神を表現させ神を代行させることでした——創 1:26．エペソ 2:15：
- A. 神は人をご自身のかたちに創造して神を表現させ、人に神の統治権を与えて、人が神を代行して神の敵を対処するようにしました——創 1:26。
  - B. 新創造の中にある新しい人としての召会は、神の表現のために神のかたちを帯び、神の王国のために神の敵と戦います——コロサイ 3:10-11．エペソ 2:15． 4:24． 6:10-11。
  - C. 古い人の中で分裂し、まき散らされたものが、新しい人の中で回復されます——創 11:5-9．使徒 2:5-12．コロサイ 3:10-11。
- II. 神の詩、傑作としての新しい人は、キリストの死を通して、キリストの復活の中で創造されました——エペソ 2:10， 15-16：
- A. わたしたちは 15 節の二つの句、「彼の肉体の中で」と、「ご自身の中で」に十分な注意を払う必要があります：
    - 1. キリストは「彼の肉体の中で」、宇宙のすべての消極的な事物を終わらせました。すなわち、神の敵、悪魔サタン(ヘブル 2:14)、罪(ローマ 8:3．ヨハネ 1:29)、墮落した人の肉(ガラテヤ 5:24)、サタンの邪悪な体系であるこの世、コスモス(ヨハネ 12:31)、古い人で代表される旧創造(ローマ 6:6)、律法の分離する規定(エペソ 2:15)です。
    - 2. キリストは範囲、要素、本質としての「ご自身の中で」、ユダヤ人と異邦人を一人の新しい人へと創造しました：
      - a. キリストは一人の新しい人(召会)の創造主であるだけでなく、新しい人が創造された範囲、要素、本質でもあります。
      - b. キリストは一人の新しい人の要素と本質であって、神の神聖な性質と人性を一つの実体とします——参照、コロサイ 3:10-11。
  - B. 新しい人の創造において、まずわたしたちの天然の人が、キリストによって十字架につけられました。次に古い人を取り除くことを通して、キリストは神聖な要素をわたしたちの中へと分け与えて、わたしたちを神の働きの傑作、宇宙における完全に新しい項目、神の新しい発明とさせました——ローマ 6:6．Ⅱコリント 5:17：
    - 1. 「傑作」のギリシャ語は「ポイエマ(poiea)」であり、「詩として書かれた、あるいは作られたもの」を意味します。
    - 2. 詩的な文章だけでなく、作者の知恵と構想を表現するいかなる芸術作品も、詩と考えられます。

3. わたしたち、召会は、神の働きの傑作であって、神の無限の知恵と神聖な構想を表現する詩です。召会は、キリストであるすべてについての神の知恵ある展覧です——エペソ 3:10-11。
  4. キリストは、神からわたしたちに与えられた知恵、すなわち、神の救いにおける三つの極めて重要なものとなりました——I コリント 1:30：
    - a. キリストはわたしたちの義です(わたしたちの過去のため)。それによって、わたしたちは神によって義とされました。それは、わたしたちが霊の中で再び生まれて、神聖な命を得るためです——ローマ 5:18, 8:10。
    - b. キリストはわたしたちの聖別です(わたしたちの現在のため)。それによって、わたしたちは彼の神聖な命をもって、魂において聖別されつつあります(わたしたちの思い、感情、意志において造り変えられつつあります) ——6:19, 22。
    - c. キリストはわたしたちの贖い(わたしたちの将来のため)、すなわち、わたしたちの体の贖いです。それによって、わたしたちの体は、彼の神聖な命をもって変貌<sup>へんぼう</sup>させられ、彼の栄光の様を持つようになります ——8:23, ピリピ 3:21。
  5. わたしたちがそのような全体的で完全な救いにあずかることによって、わたしたちの全存在(霊、魂、体)は有機的にキリストと一になり、キリストはわたしたちのすべてとなり、わたしたちはキリストであるすべてについての知恵ある展覧となります。これらすべては神によります。
- III. キリストは十字架上で、数々の規定から成っている戒めの律法、隔ての中垣を、彼の肉体の中で廃棄して、ご自身の中で新しい人を創造しました ——エペソ 2:14 後半 -15 前半：
- A. 15 節で語られている律法は、道徳の戒めの律法ではなく、儀式の戒めの律法、例えば、割礼、安息日を守ること、ある食物を食べることなどの規定です。
  - B. 規定は生活と礼拝の形式や方法であり、それが敵意と分裂を造り出します：
    1. 十字架上で、キリストは生活と礼拝に関するすべての規則、すなわち、諸国民を分裂させた規則を廃棄しました——15 節, コロサイ 2:14。
    2. バベルの時から、人類は生活と礼拝の方法に関する規定によって分裂させられてきました。神のエコノミーにおいて、召会生活の中で、わたしたちはバベルに打ち勝たなければなりません——創 11:1-9：
      - a. キリストが、わたしたちの唯一の源であるべきです。わたしたちは自分の背景、文化、国民性の何ものにも、わたしたちの源とならせるべきではありません——参照、コロサイ 3:10-11。
      - b. この世の人は、文化的な違いを誇りの源と考えますが、キリストの中

で、わたしたちはこの誇りを捨てました。今やわたしたちの唯一の誇りはキリストであり、真の一です。

c. わたしたちが進んで自分の文化の誇りを放棄するなら、主は正常な召会生活を持つことができます——エペソ 4:22-24。

IV. わたしたちは一人の新しい人のために、また一人の新しい人の中で、キリストの平安に、わたしたちの心を裁定させる必要があります——エペソ 2:14 前半, 15 後半. コロサイ 3:12-15. 2:14-18. ローマ 5:1. マタイ 18:21-35 :

A. 「裁定する」のギリシャ語はまた、「審判する、つかさどる、あらゆることの支配者、決定者としての位に就く」と訳すことができます。わたしたちの心の中のキリストの裁定する平安は、あらゆる人に対するわたしたちの不満を解決します——コロサイ 3:13-15。

B. わたしたちはしばしば、内側に三当事者がいることに気づきます。それは積極的な当事者、消極的な当事者、中立的な当事者です。このゆえに、内側の裁定が、わたしたちの内側の論争を解決する必要があります :

1. わたしたちは、わたしたちの存在の内側の異なる当事者が論争し、口論していると感じるときはいつも、キリストのつかさどる平安に地位を与えて、新しい人の一であるこの平安に、わたしたちの内側を支配させ、最終的な結論を下させる必要があります。

2. わたしたちは自分の意見、観念をわきに置き、内住する審判者の言葉に聞き従う必要があります。

C. もしわたしたちがキリストの平安にわたしたちの心を裁定させるなら、この平安はわたしたちの間のすべての論争を解決します。そしてわたしたちは垂直には神と平安を持ち、水平には聖徒たちと平安を持ちます :

1. キリストの平安が裁定することを通して、わたしたちの問題は解決し、聖徒たちの間の摩擦は消えます。そして召会生活は甘さの中に保たれ、新しい人は実際的に維持されます。

2. キリストの平安が裁定するとは、キリストがわたしたちの内側で働いて、わたしたちに対して彼の支配を行使し、結論を語り、最終決定を下すことです——参照、イザヤ 9:6-7。

3. わたしたちが、御座に座すキリストの平安の支配の下にとどまっているなら、人を怒らせたり、傷つけたりすることはありません。むしろ、主の恵みによって、また彼の平安をもって、わたしたちは人に命を供給します。

4. この平安はすべての信者を共に結ぶべきであり、結合するきずなとなるべきです——エペソ 4:3。

V. 一人の新しい人の中でキリストはすべての肢体であり、すべての肢体の中

におられます——コロサイ 3:10-11 :

- A. わたしたちの中に住んでいるキリストが、一人の新しい人の構成要素です——1:27. 3:11 :
1. キリストが新しい人のすべての肢体であるので、新しい人の中にはいかなる天然の人(いかなる種族、国籍、文化、社会的身分)もあり得ず、天然の人に対する地位は一切ありません——10-11 節。
  2. わたしたちがどのような種類の人であっても、一人の新しい人に関する限り、わたしたちはみな何者でもありません。
  3. 一人の新しい人の中にはただ一人のパーソン、すなわち、すべてを含むキリストがおられるだけです——2:17. 3:4, 11。
- B. 新しい人のために、わたしたちはみな、キリストをわたしたちのパーソンとする必要があります——エペソ 2:15. 3:17 前半 :
1. 召会はキリストのからだとして、キリストをその命として必要とします。召会は一人の新しい人として、キリストをそのパーソンとして必要とします。
  2. キリストはわたしたちすべての中に、一人のパーソンとしておられます。ですから、わたしたちはみな、ただ一人のパーソンを持っています——ガラテヤ 2:20. エペソ 3:17 前半。
  3. 一人の新しい人の実際的な出現のために、古い人のパーソン全体は除去されなければならず、わたしたちは新しいパーソンによって生きなければなりません——ローマ 6:6. ガラテヤ 2:20. エペソ 4:22-24. 3:17 前半 :
    - a. わたしたちは、キリストをパーソンとし、わたしたちの中ですべての決定を下す方とすることによって、新しい人の中の生活をする必要があります。
    - b. わたしたちは自分が一人の新しい人の一部であることを見るなら、自分だけで事を決定することはできなくなります。
    - c. わたしたちは、自分が団体のからだ、また団体の新しい人であることを見る必要があります、またわたしたちの生活(パーソン)も行動(命)も団体のものであることを見る必要があります—— I コリント 12:12. ローマ 12:4-5。  4. わたしたちはエペソ第 2 章 15 節の「一人の新しい人」を、ローマ第 15 章 6 節の「一つの口」と、 I コリント第 1 章 10 節の「同じ事を語り」と一緒に見る必要があります :
    - a. 過去、あまりにも多くの口があったのは、あまりにも多くのパーソンがあったからです。
    - b. 「一つ思いをもって」と「一つの口で」は(ローマ 15:6)、わたしたちは数

が多く、すべての人が語っていても、みな「同じ事を語」ることを意味します(Iコリント 1:10)。

- c. わたしたちは数が多く、多くの場所から来ていても、みな一つの口を持ち、みな同じ事を語ります。これは、わたしたちがみな一人の新しい人であり、ただ一人のパーソンを持っているからです——エペソ 2:15. 4:22-24. 3:17 前半. ローマ 15:6. Iコリント 1:10。

*©2024 Living Stream Ministry*